

本資料は（一財）社会変革推進財団との業務委託契約に基づき、SIMIの責任において制作されました。原著の著作権は当該資料を作成した作者にあり、日本語化された資料の著作権は（一財）社会変革推進財団及び（一財）社会的インパクト・マネジメント・イニチアチブにあります。
(<https://simi.or.jp/grc>)

報告水準を高める ーインパクト・パフォーマンス報告 の主要な要素ー

*Raising the Bar: Aligning on the Key Elements of Impact
Performance Reporting*

BlueMark
2022年4月

牧野 松代 抄訳・まとめ

調査報告書の概要

作成者：BlueMark www.bluemarktideline.com

- CEO・共同創立者 Christina Leijonhufvud
- 2020年創立、投資家と事業会社にインパクト検証サービスを提供するリーディングカンパニー

調査の目的と概要

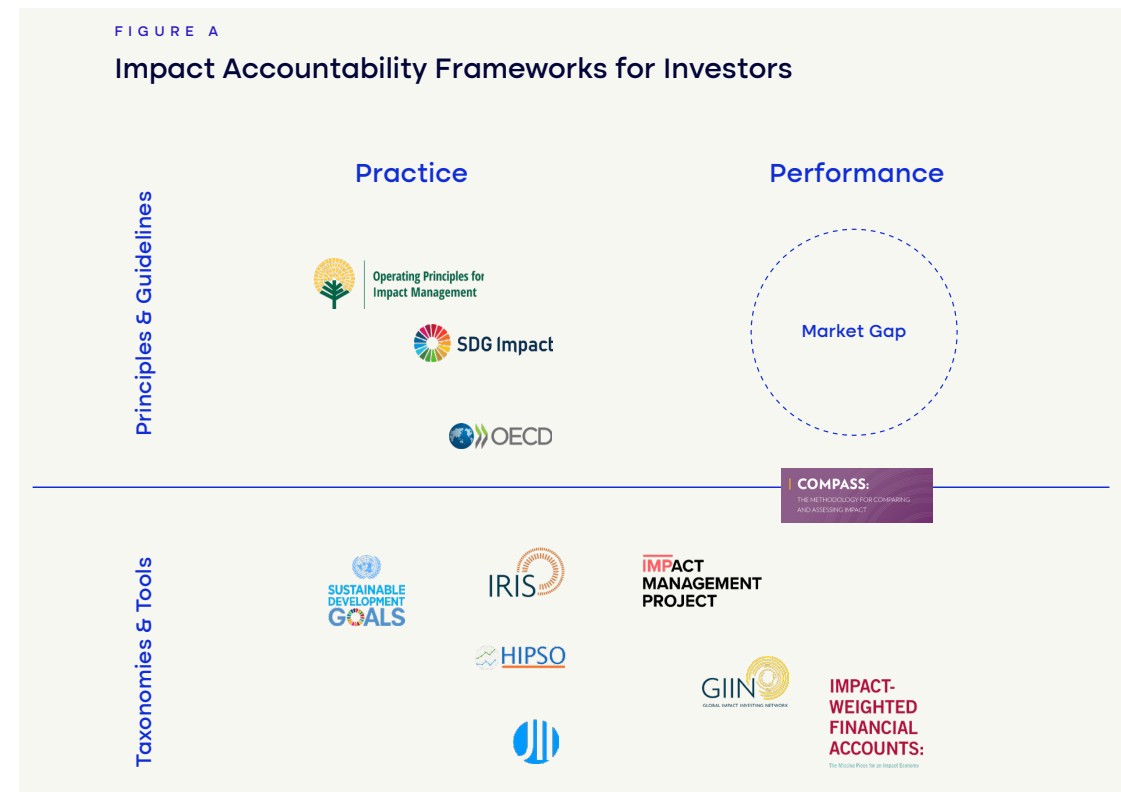
- インパクト・パフォーマンス報告の質と有用性を向上させることが市場の要請。インパクト・パフォーマンス・レポートのベストプラクティスの採用を加速させる必要性の根拠を示す。
- ロックフェラー財団とティッピング・ポイント基金から助成を受け、2021年秋に研究プロジェクトを開始
- 本報告書はシリーズの第一弾。質の高いインパクト・レポートの中核的要素の抽出を目指す。第二弾では検証のフレームワーク開発に重点を置く予定



調査の背景

インパクト・パフォーマンス報告をめぐるインパクト投資市場の概観

- インパクト測定・マネジメント（IMM）の分野では、ベストプラクティスの標準化に向けて近年大きな進展が見られた。
- 企業のサステナビリティ報告やESG関連の情報開示も、EUのサステナブルファイナンス開示規則（SFDR）や国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）における複数のフレームワークの統合によって勢いを増している。
- 他方、インパクト・パフォーマンス報告では、様々なIMMのフレームワークを選択的に利用し、独自の方法で取り組むインパクト投資家がほとんど。
- インパクト投資業界が統合性を持って成長するには、インパクト・パフォーマンスのベストプラクティスについても足並みを揃える必要がある（右図のギャップを埋める）。



調査のアプローチと方法

民間市場の投資家によるインパクト報告に焦点を当て、以下の3つの包括的な質問を検討

1. インパクト（パフォーマンス）報告の現状はどのようなものか
2. インパクト報告のベストプラクティスについて、現在の市場の見解はどのように考えるか
3. インパクト・レポートの質と使いやすさを向上させるにはどのような道筋が有望か

調査方法：既存インパクト・レポートの分析と業界関係者へのインタビュー

- ① 最近公表されたインパクト・レポートのうち31件のサンプルをレビュー・分析。報告慣行や共通の傾向を探る。
- ② 業界の多様なステークホルダー57名との対話
 - ステークホルダーにはレポート作成者 (GP)、レポート利用者 (LP)、レポート基準開発者を含む
 - 1対1インタビュー (26回) とフォーカスグループ討議 (6回)

* 調査のアプローチには、サンプルサイズが小さいこと、民間市場に焦点を当てていること、豊富な報告体験あるGPへの偏り、欧米に本拠のある業界ステークホルダーへの地理的偏りなど、調査結果に影響ををもたらす制約条件があり、今後の調査の検討事項として残される。

重要用語（本報告書で使用）

- **インパクト・マネジメント** (Impact management) : グローバルインパクト投資ネットワーク（GIIN）は、インパクト・マネジメントを「自らの事業活動が人々や地球に与える 正と負の影響 (effect) を特定・考慮し、自らの目標に沿って負の影響を軽減し、 正の影響を最大化する方法を見出すこと」と定義している [注1]。
- **インパクト・レポート** (Impact report) : 本報告書では、インパクト・レポート（またはインパクト・パフォーマンス・レポート）を、投資や投資活動のポートフォリオ全体でのインパクト関連の進捗と結果を伝えるためのツールと定義する。
- **レポート作成者** (Report producers) : インパクト・レポートを作成する投資家で、ゼネラル・パートナー（GP）又はファンド／アセット・マネージャーとも呼ばれる。企業への投資家及び他のファンド（ファンド・オブ・ファンズ）への投資家の両方が含まれることもある。
- **レポート利用者** (Report consumers) : リミテッド・パートナー（LP）又はアセット・アラケーターとも呼ばれる、インパクト・レポートを利用する投資家。
- **レポート基準開発者** (Report framers) : 基準設定主体、規制当局、業界コンサルタント、ネットワークリーダー、調査・データのプロバイダーなど、業界のベストプラクティスとその実施に関する見識を広め指針・ガイダンスを開発する組織・個人の専門家。

[注1] インパクト・マネジメントにはプラスとマイナスのインパクトを測定するインパクト測定も含まれ、インパクト測定・マネジメント（IMM）と総称されることもある。

インパクト・パフォーマンス報告の現状

調査結果：GPインパクト・レポートの分析

主な属性	分析結果
目的の記述	87%のレポートは、ファンドの包括的なインパクト目標を説明 76%のレポートは、目標を標準的な枠組み（SDGsなど）に整合させている - 数量的な目標値（ターゲット）を示しているのは37%のみ
投資先企業の範囲	結果の報告において報告者の恣意的な選択が一般化していることを示唆 ポートフォリオの全投資先に関する情報を掲載しているレポートは3分の1（35%）のみ
リスクと失敗についての情報	レポートは主に成功に焦点を当てている。 - インパクト・リスクに関するコメントを含むレポートは39%のみ - 失敗（インパクト・アンダーパフォーマンス）に関するコメントを含むレポートは25%のみ - 定量的なマイナスのインパクトを含むレポートは0%
ステークホルダーの視点	GPの意思決定に直接影響を受けるステークホルダー（投資先企業の従業員や地域住民など）の視点からのデータやケーススタディを取り入れたレポートは45%のみ
標準的指標の使用	報告データの比較やベンチマーキングが困難 標準化された指標を使用、または指標の出典や定義を引用しているレポートは半数以下（44%）

インパクト・パフォーマンス報告の現状

調査結果：全体像

サンプルに含まれるレポートには構成、長さ、内容に大きなばらつきがあり、比較可能な情報や文脈を考慮した情報がほとんどないことがわかった。

この要因は何か？

- ① さまざまなインパクト測定の枠組があり、LPの要求も一貫していないため、GPにとってレポート作成のための共通のアプローチを見つけることが困難。
- ② インパクト・パフォーマンス・レポートは、意思決定のためよりも、主に資金調達やマーケティング活動の支援のために使用されている。
- ③ インパクト投資の枠組の多くは、定性的情報よりも標準的な指標を重視。しかし両方ともインパクト・パフォーマンスを理解する上で重要。
- ④ GPは現在、よりバランスのとれた、意思決定に有用な報告を行うための好事例を見せていく開拓者となるインセンティブをほとんど持っていない。

質の高いインパクト・レポートの主要要素

調査結果：ステークホルダーとの対話

質の高いインパクト・レポートにはどのような情報が含まれるべきか

① 包括的要素：共通の基本的な特性

明確性（Clarity）

- アクセスしやすく直感的に理解できるフォーマットでの情報提示
- 定義、データの収集方法など指標の基礎となる計算や仮定の明確な引用

網羅性（Completeness）

- 全ての投資先企業の結果を提示
- ポートフォリオレベルと各投資レベルの両方のパフォーマンスを含む
- 正の結果とアンダーパフォーマンスの双方を含む

Clarity	Defined objectives and expectations	Articulated objectives Investor contribution Transparent expectations
	Relevant metrics	Clear link to objectives Standardized indicators Breadth and depth
	Relative performance results	Performance relative to targets Performance over time Performance relative to external benchmarks
	Integrated stakeholder perspectives	Description of stakeholders Stakeholder relevance Stakeholder feedback and outcomes
	Transparency into risk and lessons learned	Impact risk Lessons learned
Completeness		

② 具体的要素：含まれるべき具体的な情報の種類やカテゴリー

意図とインパクト 目標の定義	明確な目的: ポートフォリオレベルでの投資家のインパクト目標
	投資家の貢献: 投資活動や価値創造活動を通じた意図的なインパクト戦略
	期待値についての透明性: 定量的アウトプット目標や可能であればアウトカム目標の使用
妥当な指標	標準的な指標: IRIS+など標準化された指標と定義に沿う
	幅と深さ (breadth & depth) : インパクトの及ぶ範囲／広がり (reach/breadth)と影響を受けたステークホルダーが経験した変化の深さ／程度 (depth/degree) の双方の定量化
相対的なパフォーマンス結果	目標 (target) に対する相対的なパフォーマンス: 時系列により結果を示し、期待値に達した分野、上回った分野、下回った分野の可視化
	長期的なパフォーマンス: 前年同月比の結果の提示、社内の基準点の提供、時系列の傾向の説明
	外部ベンチマークと比較したパフォーマンス: パリ協定・SDGs目標などとのギャップ
ステークホルダー の視点の統合	ステークホルダーの記述: 投資によって意図された結果を体験するステークホルダーの定義
	ステークホルダーの関連性: ファンドまたは投資の意図したアウトカムが当該ステークホルダーにとってマテリアルであることの根拠または合理性
	ステークホルダーのフィードバックとアウトカム: 関連する介入によるステークホルダーの直接体験を反映する情報(数量的指標とともにナラティブやケーススタディも)
リスクと教訓に 対する透明性	インパクトリスク: 各投資および関連する場合はポートフォリオレベルで、潜在的領域と実際に観察された領域の双方でのインパクトリスク
	教訓: インパクト戦略を実施した期間中にファンドが体験したトレードオフ、失敗、教訓についてのコメント

インパクト・レポートの質の向上へ向けた道筋

ステークホルダーとの対話とプレッシャーテストを経た提案

インパクト投資市場の主要なアクターの役割と組織の出発点に応じた3つの段階—準備 (prepare)、促進 (promote)、開拓 (pioneer)—で各アクターができる行動を以下の表にまとめる（報告書本文 FIGURE D）

	準備（Prepare）	促進（Promote）	開拓（Pioneer）
レポート基準開発者 Report Framers 協議し、枠組を成文化する	投資家（GPとLP）と緊密に協議し、インパクト報告の指針とベストプラクティスを開発し調和させる	実用的なリソースとツールを創造し、報告の価値についてのエビデンスを蓄積し、ステークホルダーとともに推奨することによって採用を促進する。	一貫性を向上させるための報告テンプレートと、報告の精度と品質を高めるための保証基準を開発する。
レポート利用者（LP） Report Consumers 報告要求を整合させ、伝達し、解決に貢献する	同業他社のアロケーターと、優先度の高い報告ニーズに整合させて調整し、報告要求の一貫性を高める。	ベストプラクティスに忠実で、他のLPとの整合性のある報告を要請する	業界の取り組みに参加して、質の高い報告、分析、ベンチマーキング、保証を支援する共有インフラを構築する。
レポート作成者（GP） Report Producers 能力を高め、共に実験を行う	インパクトマネジメントのベストプラクティスを採用し実行して、質の高いインパクト・レポート作成の基礎固めをする。	ベストプラクティスに整合させたレポートを、理想的には実践コミュニティの一員として開発する。	インパクト・レポートの第三者保証を受けてパフォーマンスを立証し、投資家としての自信を強める。

結論と次の段階への前進

- 今日、世界最大の金融機関や投資会社の多くがインパクト重視のアプローチを採用するようになった。
- しかし、インパクト投資が今後も拡大し、世界の社会的・環境的課題に大きな影響を与えるためには、インパクト・パフォーマンスの報告に関するアプローチについて合意に達する必要がある。
- レポートの作成者とレポートの利用者は、意思決定に有用なレポートとはどのようなものかについて概ね一致している。このコンセンサスをもとに、各ステークホルダーが、それぞれ異なる役割を担い、ステークホルダー間での緊密な協力を行うことが不可欠である。
- この調査シリーズの次の段階として、BlueMark はImpact Frontiers*とのパートナーシップにより、同団体のコミュニティから選ばれた「レポート・プロデューサー」グループとともに、本報告書の研究成果をもとに、インパクト・レポートの検証方法を試験的に導入する。

* Impact Frontiers はインパクト・マネジメント・プロジェクト(Impact Management Project) の関連団体で、アセットマネージャー、アセットオーナー、業界団体とともに組織された学習とイノベーションのコラボレーション

ご利用条件

本資料は一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（Social Impact Management Initiative: SIMI）（以下「当法人」といいます）が運営するSIMIグローバルリソースセンター（以下「本ウェブサイト」といいます）に掲載されているものです。

本ウェブサイトを利用される前に以下の利用条件をお読みいただき、これらの条件にご同意された場合のみご利用ください。本ウェブサイトをご利用されることにより、以下の条件にご同意されたものとみなします。

なお、以下の条件は、予告なしに変更されることがあります。本条件が変更された場合、変更後の利用条件に従っていただきます。あらかじめご了承ください。

1. 著作権について

本ウェブサイト上のすべてのコンテンツに関する著作権は、特段の表示のない限り当法人および当該資料の原著の作者に帰属しております。そのすべてまたは一部を、法律にて定められる私的使用等の範囲を超えて、無断で複製、転用、改変、公衆送信、販売などの行為を行うことはできません。

2. 免責事項

本ウェブサイトは、社会的インパクト・マネジメントに関連する海外の文献や資料を、日本語に訳しまとめたものを、著者及び出版元の許可を得て掲載しています。本ウェブサイトに掲載されているコンテンツは、あくまでも便宜的なものとして利用し、適宜、英語の原文を参照していただくよう、お願いいたします。

誤りのないようあらゆる努力をしておりますが、誤訳、あるいは、掲載されている情報の使用に起因して生じる結果に対して、当法人関係者及び当ウェブサイトは、一切の責任を負わないものといたします。

当法人は、予告なしに、本ウェブサイトの運営を中断または中止、掲載内容を修正、変更、削除する場合がありますが、それらによって生じるいかなる損害についても一切責任を負いません。また本ウェブサイトのご利用によりご使用者様または第三者のハードウェアおよびソフトウェア上に生じた事故、データの毀損・滅失等の損害について一切責任を負いません。

3. リンクについて

営利、非営利、イントラネットを問わず、本ウェブサイトへのリンクは自由です。ただし、公序良俗に反するサイトなど、当社の信用、品位を損なうサイトからのリンクはお断りします。また事前事後にかかわらず、その他の理由によりリンクをお断りする場合があります。

4. 資料の引用について

本ウェブサイト上に掲載された日本語まとめ、抄訳及び翻訳資料を引用する際には、出典の著作者名として「一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）グローバルリソースセンター」及び当該資料の原著の著作者名を、併せて明記ください。なお、引用の範囲を超えられる場合は、当法人および当該資料の原著の著作権者に了解を得てください。